

個人質問

津みらい

いとう てつや
伊藤 哲也

録画映像



問 津市の水産物不漁に伴う支援策について問う

コロナ禍の7年連続の禁漁に始まり、令和4年の真イワシの不漁、令和3年のバカ貝の不漁、アサリに関しては、ここ五、六年は水揚げがゼロの状態が続いている。

雲出川や津市内の河口でアサリの稚貝が大量に発生しているが、大きくなるまでに死んでしまう。

様々な支援は考えていただいていると思うが、現在行っている支援策と今後の支援策は。

答 ハマグリの種苗放流を継続し、成果が上がるよう取り組む

津市では、魚介類等の水産資源を将来にわたり確保するため、毎年、ハマグリ、ガザミ、マコガレイの種苗放流を行い、各漁協を支援しており、ガザミやハマグリに放流の効果が表れていることから今後も継続していく。また、漁獲高が上がっていない放流魚種の変更など、県や各漁協と協議し、取り組んでいく。なお、県においては、伊勢湾のアサリ資源の回復に向け、強い波による稚貝の流出を防ぐなどの取り組みを行っているため、天然稚貝の移動に関する助言や貧酸素水塊に関する情報提供を行うとともに、アサリの水産資源の確保について県へ要望していく。

その他の質疑・質問

- 津市職員定数条例の一部の改正について
 - 職員定数を2,750人とした根拠・考え方は
 - 時代の変化によって職員体制に見直しが必要となった場合、定数条例の改正はあり得るのか
- 小規模公園の維持管理について
 - 市内に自治会が管理している公園はどのくらいあるのか

▶ 翌年に向けたバカ貝、ハマグリの試験引きの様子



個人質問

津みらい

いしかわ よしのり
石川 禎紀

録画映像



問 デジタル地域通貨について問う

地域外への経済流出を抑え、地域内の流通を活性化し、市内業者の支援や経済循環の促進を図る地域循環型通貨、デジタル地域通貨を運用してはどうか。また、マイナンバーのIDを格納するマイキープラットフォームを活用し、デジタル地域通貨を運用することでコミュニティの活性化、自治体ポイントなどの市民サービスの向上につながるのではないかと見解と課題点を問う。

答 全庁的な取り組みとしてデジタル地域通貨を調査研究していく

デジタル地域通貨の活用に向けては、ポイントの付与が市民活動や地域コミュニティの活発化などにつながられ、誰もが利用しやすく魅力を感じる仕組みとなるようシステム設計や庁内での体制のほか、システムの運用や関係団体と連携などを検討していく必要があると考えている。

国において整備されている、マイナンバーカードに備え付けられたマイキープラットフォームを使って、ポイント給付施策を行う自治体もあり、このような先進自治体の取り組みや動向の把握も含め、全庁的にデジタル地域通貨を有効的に活用する方法を調査研究していく必要がある。

その他の質疑・質問

- 地域資源を生かした官民連携の観光の取り組みによる振興について
 - 大人が楽しめる社会科見学について
- コロナ禍における学校生活でのマスク着脱および感染対策の対応について
 - 子どもたちの心のケア、自尊感情を育むための対応について

▶ さまざまな市民サービスで付与されるポイントを地域経済へ循環できる仕組みを

